







## J. S. バッハ

## 音楽の捧げもの BWV1079

ジョン・ブランソフ・バイヤール指揮

バイヤール室内管弦楽団ソリストたち

ジュゼッペ・ジョヴァンニotti・アンドリュース・ヴァイオリン

アラン・メイヌ・トイモン・ヴァルター・ヴィオラ

アラン・ファルケンバート・ヴァッラ・ホルン・マチューロ

マカセン・ス・ラウ・フルート

ローレン・モラビティ・クラリネット

フェルナン・ブラス・コントラバス

シラザン・シモン・ジョン・ブランソフ・バイヤール

録音日時・所

1976年12月10日〜12月12日 グラシー・スウェイス

ノール・ダム・デ・ローズ敷金

演奏楽器

ピーター・ヴィルキーズ・実況録音

制作

ミシェル・ガルサン・編集者・司音録音

日本コロムビア・エレクトロニクス制作



## バイヤールのバッハ〈音楽の捧げもの〉

●——高橋 健

日本から日本コロムビアの録音ではじめて録音されたのも、日本でもフランスでも同じ地方のよって完成したレコードである。このようにもして、PC録音の技術によって可能になった。すでにPC録音を十分に知っているレコーディングエンジニアは、この《音楽の捧げもの》の録音にあたっては、それとそれとに備えて、しかも録音に際してアマチュア的な考えでもよいである。

楽楽知のように、《音楽の捧げもの》は、フルート、ヴァイオリン、演奏楽器を指定した《ソナタ・ソナタ》、《ソナタ・ソナタ》と、二つのヴァイオリン・フルートと書かれた二つのソナタ以外は、楽器の指定を持たない。またヴァイオリンとフルートの両方によって演奏される。《6声のリチェルカール》には、アマチュアで演奏可能なように、2声の大提琴による自筆楽譜と、4声の純器内野の編成譜が用意されている。また高橋のスコアは、演奏者による編成が必要である。しかもその、高橋の編成の仕方にも問題が多い。といわれて、《音楽の捧げもの》の演奏にあたっては、演奏者によるさまざまなシラザン・シモンの可塑性を残している。またその楽器の指定も欠いている《ソナタ・ソナタ》は、多少の手がかりがあるとはいへ、演奏者によっては編成の種々問題である。それだけならば、演奏者自身の能力や学識や癖があらわれてしまうのである。

またバイヤールは、フルート・ソナタ・ソナタ、ヴァイオリン・ソナタ、ヴァイオリン・ソナタ、ソナタ・ソナタ、それとクラリネット・ソナタ、バッハ自身の指定楽器を基礎に、アマチュア最少限の編成をとっている。さまざまな楽器を用いて、ほのかな音色の変化を求める編成の多いのが、しかもバイヤールらしい、さつきりとした編成である。小編成であるだけに、各楽器の動きが鈍重にならず、確かな明瞭さをもって響く。

例として第1曲の《3声のリチェルカール》。この曲は、バッハが大正の前後で何回も演奏したものも指定されており、編成楽譜でも2声の大提琴と書かれている。それだけに、最近では、クラリネット・ソナタで演奏されることが多い。しかしそれは、もともと音質、演奏性のある編成である。バイヤールは、あえてその方法をとらず、フルートと弦で演奏している。しかも数上声部を、フルートとヴァイオリンのソナタに分けて録音しているのである。つまり数上声部は、むしろ2声部のように扱われる。それによって、この曲から、実に意外な高調の響きや変化を生み出すことになった。これは驚き（楽楽主義）からいって、いささか危険なやり方ではあるが、バイヤールは、その危険を承知の上で、声部の極め地を、声部の立体的変化とも同時に求めるように思われる。バイヤールはまた、ヴァンサン・ス・ラウの妙技を、多くのソナタでも先かそうと試みている。バッハ自身によって楽器が指定されている《ソナタ・ソナタ》は、ヴァイオリンを含めて、このレコードの中での特長である。また高橋は《3声のリチェルカール》でも、アマチュアによる演奏をとらずに、多くの編成者ができるように、従来の



編成を減らしている。またクラリネット・ソナタも加えて、低音を弾き出しているのは、PC録音の威力を考慮に入れた結果であろう。バイヤールのソナタでは、むしろ録音上楽譜を演奏するが、録音してしまっているのは必ずしもである。

曲の編成も、二つのヴァイオリンと両端の演奏、《各種のソナタ》と《ソナタ・ソナタ》の両方、真中の二つの《ソナタ・ソナタ》を録音し、録音は《ソナタ・ソナタ》《ソナタ・ソナタ》《ソナタ・ソナタ》と、その録音は、真中の二つの録音してゆくように編成した録音のものである。

〔注〕このレコードはPC録音でもレコーディングに収録したのも、UDの方式によるレコーディング・システム・アクトン・レコーディングのものである。〕

## J. S. バッハの音楽の捧げもの

●演奏形式・演奏時間

1. 1声のリチェルカール 5:24

2. 王の主眼による各種のカノン 6:24

3声のカノン

4声のカノン

2声部でのカノン

2声部でのカノン

4声部のカノン

3. トリオ・ソナタ——フルート・ヴァイオリン・ヴァイオリン 8:38

フルート 5:15

ヴァイオリン 6:08

ヴァイオリン 5:33

ヴァイオリン 5:00

4. 上方を度フルーガ・カノニカ 6:28

5. 王の主眼による各種のカノン 7:05

6. 無題カノン 7:13

7. 2声のカノン 7:33

8. 3声のカノン 7:10

9. 4声のリチェルカール 6:42

